



おのゑ
尾上邸(広島)



おとうざん
王頭山(広島)

祝! 日本遺産認定



たかのぼりやまいしきりば
高無坊山石切丁場跡(本島)



笠島集落(本島)

知ってる!?

悠久の時間が流れる

STONE ISLANDS
石の島

～海を越え、日本の礎を築いた **せとうち備讃諸島**～

今回認定を受けたストーリーを紹介します



巨石を「切る」
400年前の採石作業風景(想像図)

ストーリー概要
瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術は、長きにわたり日本の建築文化を支えてきました。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれています。

島々には、400年にわたって巨石を切り、加工し、海を通じて運び、石と共に生きてきた人たちの希少な産業文化が息づいています。世紀を越えて石を切り出した丁場は、独特の壮観な景観を形成し、船を操り巨石を運んだ民は、富と迷路のような集落を遺しました。今なお、石にまつわる信仰や生活文化、芸術が継承されています。



高さ約100メートルの断崖となっている、笠岡市・北木島の丁場



本島・高無坊山の石切丁場跡。切り出されても使用されなかった残念な石ということで、「残念石」と呼ばれています。



大坂城の石垣の一部には、丸亀の島の石も使われています



島の人の崇拜と祈りの対象となってきた、土庄町の重岩



1930年頃の石の積み込み風景



400年前の採石技術を目の当たりにできる、小豆島・岩谷地区の丁場

令和元年度 日本遺産認定証交付



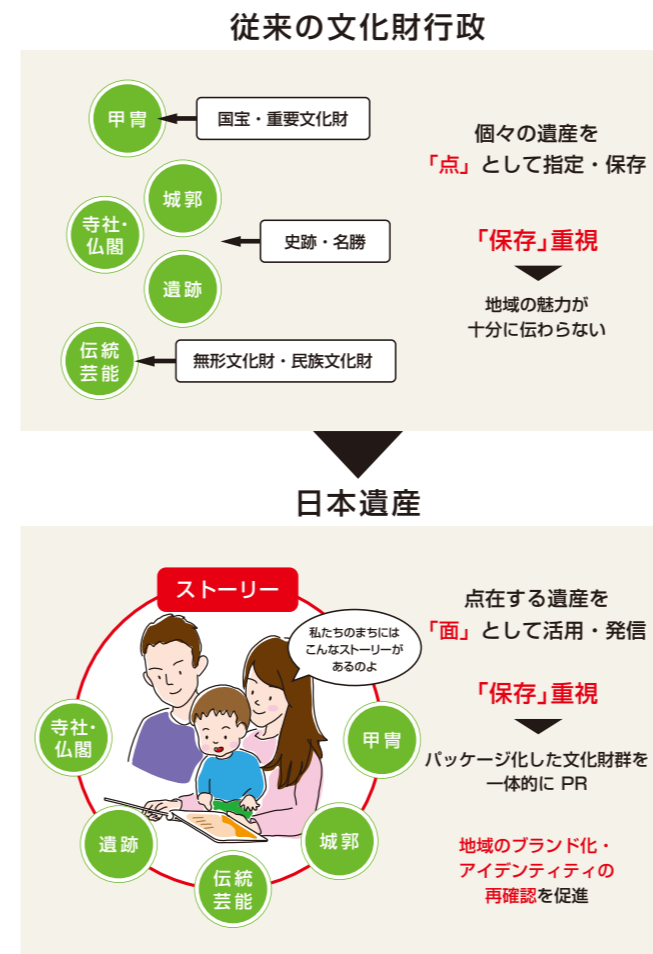
祝!
日本遺産認定

知ってる!? 悠久の時間が
流れる石の島

～海を越え、日本の礎を築いた
せとうち備讃諸島～

丸亀市・笠岡市・土庄町・小豆島町が共同で申請していた、瀬戸内海の備讃諸島をテーマにした「石の島」の物語(ストーリー)が、5月20日、見事日本遺産に認定されました! 今月の特集では、その物語を紹介するとともに、認定された日本遺産を今後どう生かしていくかを考えます。

写真左から小豆島町の松本町長、笠岡市の小林市長、土庄町の三枝町長、丸亀市の梶市長



日本遺産とは
地域の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統を語る「ストーリー」にまとめたものを、文化庁が「日本遺産」として認定するものです。認定されれば、ストーリーを語る上で不可欠な、魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを、文化庁が支援してくれます。2015年に始まり、これまでに四国遍路などが認定を受けています。

世界遺産とは違うの?
「日本遺産ってあまり聞いたことがないけど、世界遺産の縮小版?」と思う人が多いかもしれませんが、そうではありません。

「世界遺産」は遺産に価値を付加し、保護することを目的としています。が、「日本遺産」は地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化につなげることを目的としています。

ストーリーを重視している
日本遺産の申請者は、全国の市町村です。各自治体(単独または共同)で文化・風習・伝統などからひとつのストーリーを作り、それに関する文化財、遺跡、名勝地、祭りなどをパッケージ化します。審査はストーリーを基準に行われ、ストーリーの興味深さ、斬新さ、地域性など、独特の基準があります。

他にもあります! 丸亀の島の構成文化財



木烏神社の鳥居(本島)

様式は明神鳥居で、笠木は両端を丸く盛り上げた特徴のある造りです。寛永4(1627)年の建立。



石の里資料館(広島)

旧広島西小学校の一部を利用して、青木石の歴史や石切りの道具、島の生活道具などを展示。



年寄の墓(本島)

塩飽水軍を統治した塩飽衆の代表者である年寄の墓。高さは3mを越え、権力の強さを物語っています。

島の人に聞きました



広島 島案内人
横瀬 通子さん(左)
平井 光子さん(右)

広島の玄関口・江の浦港の待合所で、地元の人々が作ったお土産などを毎週土・日曜にボランティアとして販売しています。広島は知名度が低いかもしれませんが、みんなで広島を元気にしようと、力を合わせて地道にがんばっています。今回日本遺産に認定されたことが、広島を多くの人に知ってもらおうきっかけになればうれしいです。島の一人一人が日本遺産を身近に感じ、盛り上がっていきながらがんばります。さぬき広島が皆さんをお待ちしております。



本島 観光ガイド
信原 清さん

本島のガイドを始めて7年目になります。普段のガイドでは、本島の歴史的な場所や観光スポットを中心に案内しています。本島の現在のガイドは実質2人と少なく、私も含めて高齢です。今回の日本遺産認定でガイドの需要が増えるようなら、若い人でガイドになる人がいてくれればありがたいです。今後は、ガイドとして「石」を通じて本島を発信していきたいと思っています。多くの人が本島を訪れ、採石や海運の歴史、文化などに興味を持ってくれればうれしいです。

日本遺産を今後*い*に生かす

丸亀市・笠岡市・土庄町・小豆島町の2市2町は、連携して石の文化をはじめとする備讃諸島の魅力を深めていくため、5月27日に「せとうち備讃諸島日本遺産推進協議会」を設立しました。今後、官民一体となって様々な事業を展開していく予定です。

観光ガイドのマニュアル作成、都市部イベントでのブース出展、日本遺産認定記念シンポジウムの開催、また、多言語対応特設サイト、PR 動画の製作、共通ポスター、のぼり、看板の設置などを進めていきます。



石の産地を支えた海運



日本遺産に認定された備讃諸島「石の島」

瀬戸内海の島々で、採石の発展をもたらした大きな要因は、「海」でした。島々をつなげていた「海」こそが、巨大な石を遠隔地まで運ぶために不可欠な「道」だったのです。
西日本の海上交通の大動脈でもあった瀬戸内の島々には、海の「道」への入り口となる港町が形成されました。
丸亀の島では、表紙にも掲載している尾上邸(広島)と笠島集落(本島)、また下記の塩飽勤番所(本島)が、港町として栄えた象徴的な場所です。当時の海の民の経済力が表れています。

構成文化財を抜粋して紹介します。

丸亀市



塩飽勤番所(本島)

瀬戸内海で活躍した塩飽水軍の政治の中心地。信長・秀吉・家康など天下人からも高く信頼され、その証となる朱印状が今も残されています。瀬戸内海の石材運搬に関わった人の偉業と歴史を伝える貴重な場所。

土庄町



迷路のまち

路地が入り組んだ土庄の集落は「迷路のまち」として知られています。西光寺はその象徴的な存在で、境内からまちを一望できます。採石奉行・加藤清正ゆかりの屋敷跡も残っています。



笠島集落(本島)

重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。中世には塩飽水軍、江戸時代には塩飽廻船の拠点として栄えました。

笠岡市



千ノ浜の護岸景観

丁場から切り出した石を積み出した小さな港。大小の端材を巧みに組み上げた護岸が残っており、「北木石」の原産地ならではの景観が見られます。



尾上邸(広島)

江戸時代に廻船問屋として繁栄した面影を残す屋敷。まるで城のような石垣は、広島の「青木石」を積み上げています。



波節岩灯標(広島沖)

広島の南・約1km沖に浮かぶ直径50mの岩礁(波節岩)の上に設置された、高さ13mの灯標(灯台)。明治28年竣工。



石蔵(広島)

花崗岩の外壁を持つ石蔵で、灯標(左写真)用油の貯蔵庫として活用されていました。



笠島集落

◀本島にある重要伝統的建造物群保存地区。中世には塩飽水軍、江戸時代には塩飽廻船の拠点として栄えた。山城のある丘陵に三方を囲まれつつ、狭い道路が複雑に食い違い、見通しがきかない防衛的な構造を示す一方、マッチョ通り（町通り）と呼ばれる主要道路に沿って町屋形式の家屋が建ち並ぶ集落が、海の民の経済力を物語っている。

所在地：丸亀市本島町笠島
笠島まち並保存センター
9時～16時営業。観覧料大人200円、小人100円
連絡先：0877-27-3828
(月曜、年末年始、1～2月の平日休館)

おのえ 尾上邸



▲江戸時代に廻船問屋として繁栄した面影を残す屋敷。まるで城のような石垣は、島の花崗岩「青木石」を高く積み上げている。

所在地：丸亀市広島町立石

ち はま 千ノ浜の護岸景観



▲丁場から切り出した石を積み出した小さな港。大小の端材を巧みに組み上げた護岸が遺っており、「北木石」の原産地ならではの景観をみせている。

所在地：笠岡市北木島町

石の産地を支えた海運

備讃瀬戸の島は、はげ山、岩場、砂浜など変化に富み、至るところに花崗岩が露出している。島の中で山と海が一体となりコンパクトにまとまっていることが、石切りと石の陸運、海運を容易ならしめた。

瀬戸内海の島々で、採石の発展をもたらした大きな要因は、海であった。島々は海によってつながっていた。海こそが、巨大な石を遠隔地まで運ぶために不可欠な「道」だったのである。

西日本における海上交通の大動脈でもあった瀬戸内海の島々には、海の「道」への入口となる港町が形成された。備讃諸島においても、街路が屈曲し、十字路を形成しない複雑な町割りを残した集落が見られる。

所在地：土庄町甲
土庄港より車で7分。

◀路地が入り組んだ土庄の集落は「迷路のまち」として知られる。西光寺はその象徴的な存在で、境内から町を一望できる。町なかには採石奉公加藤清正ゆかりの屋敷跡も残る。

「迷路のまち」土庄



所在地：笠岡市真鍋島 真鍋島本浦港すぐ。

▲笠岡諸島の真鍋島では、中世真鍋水軍の拠点にふさわしく、山城のふもとに防衛的な町割りの集落が展開している。真鍋家住宅は、島の集落景観を代表する古民家である。

真鍋島の集落



▼明治25年（1892年）の手作業の時代に始まり、機械化された現在も石切りを続ける北木島の丁場は、高さ100mの断崖となっている。切り出された北木石は東京駅丸ノ内本屋などの重要文化財に使われている。



天狗岩丁場



所在地：小豆島町岩谷
「天狗岩」バス停すぐ。
トイレ有。

大坂城石垣石丁場跡



▲福岡藩黒田家が開いた小豆島岩谷地区の丁場には1600個を超える石が残されており、400年前の採石技術を目の当たりにできる。

大坂城残石資料館



道の駅「大坂城残石記念公園」内にあり。
所在地：土庄町小海甲909-1
入館無料。9時～17時の営業。
定休日は12月29日～1月3日。

石切りの歴史

備讃諸島の島々には平地が少なく、山肌から海岸まで、至るところに巨石がむき出しとなっている。このような特性を活かして、江戸時代以降、良質の花崗岩等が切り出され、城の石垣や建造物に使われるようになっていった。

その400年の歴史が凝縮されているのが、丁場（ちようば）と呼ばれる石切場である。石に鉄製の矢（や）を打ち込み、割り取ることを「切る」という。大きな石を切るためには、石の目を読む高度な技術と、そのための道具が必要である。

備讃諸島を巡ると、400年にわたる採石の技術の変遷を、肌で感じる事ができる。